

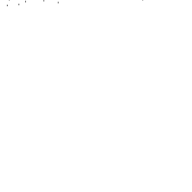
大人計画公演 冬の皮

1993年3月18日(水)〜25日(水) シアタートップス

キャスト

店長……………山本密
 キムラ……………新井亜樹
 親……………伊勢志摩
 子……………久留蝶丸
 カシブチ……………松尾スズキ
 サイトウ……………穴戸美和公
 スマコ……………顔田顔彦
 ボーイ……………池津祥子
 ママ……………鈴木麻王
 チーちゃん……………片葉みはる
 姉……………青島寒月
 弟・シマズ……………山井鏡研
 ソリの男……………鳥居塚我流
 少年……………町田まこと
 メイド……………阿部サダヲ
 奴……………

薄リス……………立石明石
 猿……………正名僕蔵
 執事……………宇佐美明伸
 町長……………宮崎吐夢
 料理人……………猫背棒



あとがき

これはわりと静謐なイメージ。まあ、最後はお祭り騒ぎになっちゃうんだけど、とりあえず入り口だけは静かな感じで始めてみようかなってうのはありましたね。(この前の年にやった『落解ロケンロール』(91年)にしろ『サエキナイト』(91年)にしろ、それまで全部ハデだったんで、ハデなことに飽きてたんですよね。だから、僕の芝居にしては珍しく、最初の三十分、二人か三人でやるっていう。で、冬の雪が降ってるイメージの中で、ぼつりぼつりとセリフを言うっていうところから始めてみました。ま、現場に入ってから役者を後から後から出していくにつれ、うるさいものに変わっていったんですけど。

この時は宮藤(宮九郎)がおもしろかったですね、初めて大きな役をやった。だから役者によって突き動かされて芝居が作られていくっていうのはつくづく感じましたね。こういうのやっていると、新井(亜樹)さんのイメージがないと、最初のシーンとかも思い浮かばなかったらうしね。

これまで間で笑わせるってことをやっていなかった。この時はちょっと間を使った笑いをやってみようかなと思ってました。ワーツと勢いでやらない。ビジュアル・インパクトでやらない。セリフの間で笑わせるってことをやりましたね。それまでは、ビジュアルとバカパワーっていうんですか？ 今でもそういうことは好きですけど(笑)。

この作品ではセリフを他のものに較べるとかなりシェイプアップしましたね。例えばそれまでだと、Aが言った、Bが言った、CもDもEもそこでバーンって言うって笑いになるところを、この時はAが言った、Bが言った、ここでCが何か言うだろうってところで誰も何も言わないっていうことを笑いにするみたい。そういうことにしてみました。

戯曲からそういう笑いを想像するのは難しいけど、それは想像していかない。それくらい成熟はダウンタウンのコントとかをテレビで見ている人だったら、ある程度訓練はできてると思うんですけど。吉田戦車のマンガとかね。いわゆるわかりやすい笑いでいいんですか？ キャラクターもサビス過剰じゃなくて、普通のリアルな芝居をしながらくだらないことをやっていくことのおかしさって。まあ、読めばわかると思いますよ。明らかにセリフの質が違ってくる。『冬の皮』とそれ以前の『落解ロケンロール』では。

こういう戯曲の中で組み立てていく作業には、2つあると思うんですけどね。舞台が限定されたシチュエーションで、そこへの入りで役者を見ていくのと、舞台のシチュエーションを限定しないで次から次へと変わっていくっていうやり方。どっちが優しいっていうことではないんですけどね。

シチュエーションを一個決めたこととは、決めたことによつて楽な部分もあるんだけど、そこでしかできないっていう不自由さがあるじゃないですか。外に出たい時、外の人としゃべりたいときどうするのかとか、こっちは出口なのに、あっちから出たいとか。僕はそういうことが自由な舞台をよくやってるんですけど、それはそれでどっかに規則性を作らないと、ただ単なるアナーキーになっってしまうかもしれないですね。

要するに、不自由なことがおもしろかったりするわけじゃないですか。AがBに対して動きかけをしようとするとき、Bが思い通りにいかないっていうところからドラマが始まっていくわけですから。思い通りにいかないことをなんとか思い通りにさせること、いわゆるドラマの達成感ですね。そこで「お客は何かもどった気がするんですけど、だからあまりにも自由だと、逆に不自由なんですよ。ドラマが作りやすいから。」

2000年3月談

スタッフ

作・演出……………松尾スズキ
 舞台監督……………南雅之(セントラルサービス)
 照明……………佐藤啓
 音響・音楽……………半田充
 衣裳……………池田祥子/鈴木真理子
 宣伝美術……………坂本チアキ
 振付……………八反田理子
 演出助手……………宮藤官九郎
 照明助手……………池野佳子/丸山武彦
 音響助手……………知念竜子
 文芸……………田中よしたか/コバヤシタツヤ
 制作……………長坂まき子